

年金積立金 運用効率向上へ

公明 アポイント

住宅融資の返済金活用を迅速化

年金住宅融資 返済金の流れ



竹谷さんが提案、年10億円超の効果も

政府は24日、年金積立金など年金資金の効率的な運用の観点から、独立行政法人福祉医療機構が行う年金住宅融資の回収に関する業務を見直すことを決めました。公明党の竹谷とし子参院議員の提案を受けたものです。

年金住宅融資は年金加入者

を対象にした住宅ローンで、年金積立金などから資金を貸し出していましたが、2005年に融資は終了しました。返済金の回収は同機構が行っています。

同機構が回収した返済金



竹谷とし子さん

(元本部分)は、12年度の場合、総額2150億円にも上りますが、年金積立金に戻されるのは、翌13年の7月でした。独立行政法人福祉医療機構法と同法施行令で、回収した返済金は1

間は利回りの低い短期資金としてみれば運用できなくなってしまう。そこで、今回の業務見直しでは、回収した返済金(元本部分)を年金積立金に戻すのを年1回に限らず複数回行えるよう改め、返済金を早期に、利回りの高い年金積立金としての運用ができるようにしました。

これによって、運用益(利息)の増加が期待できるようになります。厚労省の試算によると、12年度中に回収した返済金を四半期ごとに戻した場合、年1回と比べて、およそ14億円程度、年金財政に貢献できることができています。

竹谷さんは、「今回の業務見直しは、独立行政法人の財務状況が複式簿記・発生主義会計という形で「見える化」されていたことから、それらをチェックすることで実現しました。こうした「見える化」を国・地方の公会計にも広げていけるよう取り組んでいきます」と語っています。

これは、回収した返済金が最長で1年3カ月もの間、機構の手元にとどまるとなると、その